



1991年11月

ニュース

No. 23

日本工学アカデミー広報委員会

事務局：〒140 東京都品川区大井1-49-15

(住友生命大井町ビル8階)

TEL：(03) 3777-2941

FAX：(03) 3777-4941

臨時総会開催さる

1. 総会

平成3年度臨時総会は平成3年10月31日(木)14:00から京都市御所中立売御門前の平安会館に於て開催された。総会はず、向坊会長から「会長の向坊でございます。只今から平成3年度日本工学アカデミーの臨時総会を会則5-20)に基づき開催いたします。なお、本日出席の正会員は24名、委任状を寄せられた正会員は235名計259名となり、会則5-17)に示される10分の1以上の定数を満たしておりますので、臨時総会は成立いたしました。」と開会を宣言された。総会の議案は平成3年9月27日付けで全会員に提示された「役員を選任について」であり、内容は、(1)武田行松会員の専務理事及び理事の退任に関する件、(2)桜井宏会員を理事に選任する件、(3)桜井宏会員を専務理事に選任する件の3件であり、これについて堀総務担当理事より会則4-8)、9)、10)等により選任するとの説明があり、全議案が満場一致で了承された。

直ちに桜井新専務理事が紹介され、また同専務理事から就任の挨拶があった。(武田前専務理事は病気のため欠席：武田前専務理事は昭和62年10月就任以来、満4年に亘り日本工学アカデミーの基礎基盤

の確立に尽力された。)

以上をもって平成3年度臨時総会は全議案を了承し、向坊会長の閉会宣言により幕を閉じた。

2. 各委員会、専門部会からの活動状況報告

総会終了後、恒例の活動状況報告が大橋総務担当理事の司会で行われた。総務関係の賛助会員の増強、会員選考委員会の正会員の増強に関する現状報告および協力要請ののち、各委員会・各専門部会の最近の活動状況が各責任者により下記のとおり行われた。

総務：堀総務担当理事、会員選考委員会：中川委員長(副会長)、政策委員会：代行堀総務担当理事、国際委員会：馬場副委員長(理事)、広報委員会：乾委員長(理事)、材料専門部会：山田幹事(理事)、情報専門部会：小口部会長(理事)、バイオ専門部会：福井部会長、地球環境専門部会：杉本部会長(副会長)

3. 特別講演

特別講演は予定通り16:00から、先ず岩佐理事の講師紹介があり、塗師宗哲12代中村弘子氏の「伝統をつなぐ」という講演が行われた。内容は日本独特の茶道に関するもので、裏・表両千家を中心に茶道



とともにお茶の道具を作る技術も何代も時代の高波に阻まれ、それを乗りきって受け継がれて来た。これらについて伝統的うるし塗りの手法についての興味深い話であった。(詳細については、後日 Information として発行予定)。

4. 懇親会

懇親会は岩佐理事の司会で、先ず向坊会長の挨拶があり、中川副会長の乾杯で開催され、特別講演講師の中村弘子氏も出席されにぎやかな歓談に終了した。



特別講演：中村弘子氏

第36回談話サロン「材料の研究－企業と大学」

日 時：平成3年10月4日(金)

場 所：福岡ガーデンパレス

講 師：新日鉄株式会社顧問、京都大学名誉教授

日本工学アカデミー理事 高村仁一氏

第36回談話サロンが、第3回九州地区会員談話会として福岡市内で開かれ、地区会員17名(今年度新会員4名を含む)のうち9名が出席した。

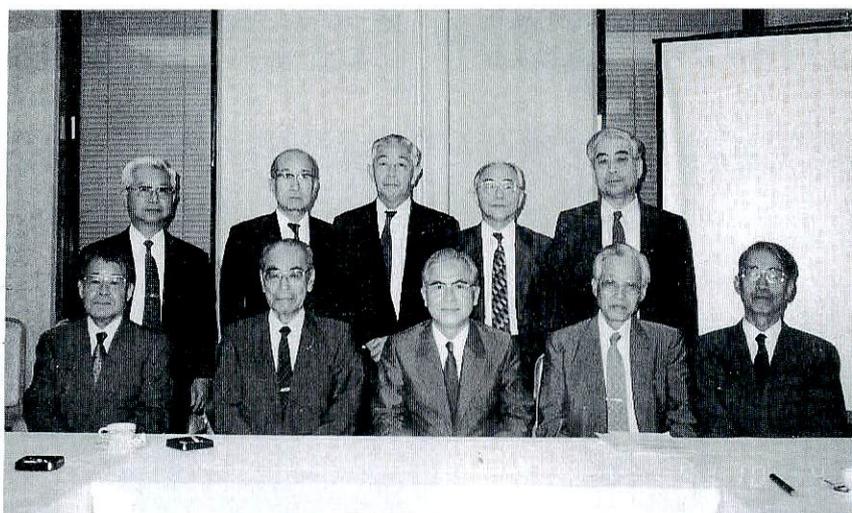
高村先生の談話は、(1)日本工学アカデミーについて、(2)工学教育の問題、(3)材料の研究の在り方から成り、2時間にわたって、OHPを使って進められた。

(1)については、過去2回の講師であった平山、米田両先生の談話を一層よく補足して下さったが、諸外国アカデミー事情と本アカデミーの関係について、威信と財政の問題を含む今後のヴィジョンが解説さ

れ、(2)については、工学教育トップフォーラムの設置と大学における工学の総合的視野の涵養が強調され、主題である(3)については、市場連鎖・技術連鎖、ビジネスとタイミング、基幹とすべきジェネリックテクノロジーを、金属材料についての経験に基づいて分かりやすく論述され、最後に、今後の日本の長大スパン橋梁のため開発が急がれる、ワイヤの飛躍的な高強度化への問題に敷衍された。

各話題ごとに質疑応答が熱心になされ、非常に稔りある談話会となり、講師は会員一同から深謝された。引続いて懇親会が開かれたが、当日は新会員のうちの2名(泉屋、原田両会員)の歓迎の意も兼ね、和気藹々のなかに会を終えた。

(文責 山内豊聡)



講師、高村理事を囲んで

講演会—第37回談話サロン「科学指標から見た日本の科学技術」

日 時：平成3年10月15日

場 所：弘済会館

講 師：丹羽富士雄氏

筑波大学社会工学系助教授

科学技術政策研究所総括主任研究官

第37回談話サロンは、標記演題のもと、出席者30名余を迎えて開催された。

講師の丹羽富士雄氏の科学技術政策研究所第2研究グループはこのほど9月に、体系科学技術指標という研究報告をまとめ、その分厚い報告書をもとに科学技術指標についての説明をされた。指標を現状報告型、判定型、政策評価型の3つに分けて考え、また、科学技術全般を把握するために、科学技術活動を中心にしてこれらを直接支えるものから、間接的なものへ研究開発基盤、科学技術基盤、社会基盤というように3層に並べ、成果の方も研究開発成果、科学技術の寄与、科学技術の社会性の3層に並べるなど、システムの把握が必要であるとのことであった。報告書は、人材育成、研究開発への支援、研究開発の現状、地域における研究開発の成果、研究開



丹羽富士雄氏

発の国際化、科学技術と社会、科学技術に対する社会の意識、のそれぞれについての科学技術指標の報告と評価、また、科学技術指標開発の今後の展望がなされており、これに沿った講演が行われた。

講演後、食事をはさんで活発な質疑応答が行われ、関心の高さが伺われた談話サロンであった。

(文責 今井兼一郎)

スイス、チューリッヒ出張報告

東京大学工学部 井口 雅一

1. 出張目的：CAETS' 93 Convocationの準備のためのWorkshopへの参加。

ワークショップ開催日：

1991年9月9日(月)9時～17時

ワークショップ開催場所：

チューリッヒ、空港ヒルトンホテル

2. 報 告：1993年にスイスでCAETSの総会が開かれます。その総会のテーマは、“The Role of Technology in guiding the development of transportation for society”です。

ワークショップの仕事は、総会のためのプログラムを作成することでした。ワークショップ案としてまとめられた正式の結果は、議事録としてその内送られてくることになっていますが、概要は下記の通りです。

3. 裏 話：後述の参加者名簿を見ると多くの参加国からの出席が見られますが、政治的なトラブルに巻き込まれるのを感じて、参加を見合わせている国もあるようです。スイスは西欧の交通の中心に

位置し、スイスを通過するトラックが政治問題化しています。スイスで総会が開かれ、交通問題がテーマだと、これに触れる恐れがあるということです。

4. 出席者：Mr. S. ANASTASION, CAETS Vice President/Prof. M. IGUCHI, Japan/Prof. L. SJOSTEDT, Sweden/Sir R. MYERS, Australia/Mr. A. K. HANSEN, Norway/Mr. M. FRYBOURG, France/Prof. E. TUNKELO, Finland/Dr. V. Q. ZEUTHEN, Denmark/Dr. G. P. DINNEEN, USA/Dr. G. ENGLAND, England/Mr. P. CLEBS, Belgium/Dr. A. W. ROTH, Switzerland/Mr. P. SCHONHOLZER, Switzerland/Mr. L. TISSOT, Switzerland, CAETS First Vice President/Dr. Speiser, SATW President

The CAETS 10th Convocation Program(Draft)

0. INTRODUCTION

I. PRESENT SITUATION AND WORLDWIDE TRENDS

a) Societal

- b) Spacial
- c) Environmental
- d) A special case:developing countries

II. PROSPECTIVE TECHNOLOGIES

- a) Air
- b) Land
- c) Water

- d) Multi-modal developments
- ## III. ECONOMICS OF TRANSPORTATION
- a) Real cost, pricing policy - taxation and trade offs

- b) Investment strategies and financing
- c) Market drive/regulation

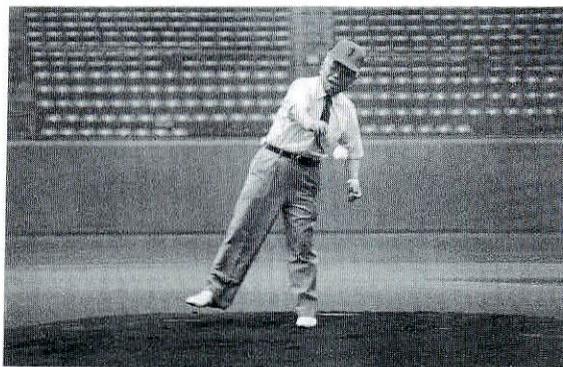
IV. STRATEGIES AND DIRECTIONS

“古稀”を迎えた草野球の投手

日本の核燃料集合体の品質が世界一になった理論的、実践的指導者である三島東大名誉教授が「古稀の日」（8月5日）を迎えた二日後の平成3年8月7日午前“大学野球の故郷”東京・代々木の明治神宮野球場の念願のマウンドに立った。60年もの“神宮”との縁で特に借りられた球場へ、昔からの仲間を集めての紅白草野球試合の紅チームの投手としてである。

捕手は東大原子力工学科の職場チーム時代から29年間ミットを持ち続けている東大の荒井良夫技官だ。相手チームの投手は次男・三島良直東京工大助教授で、捕手が教え子の中部電力浜岡発電所の平井啓詞副所長である。

ネット裏で観戦する150人近い人々の中には、教え子で歳若くして科学技術庁の局長になった石田寛人原子力局長をはじめ児玉勝臣発電設備技術検査協会理事長、石川寛元原研副理事長らの顔が見られ、友人、知人、教え子が声援を送る。試合に先立つ始球式のマウンドに立ったのは向坊隆原子力委員長代理だ。ご本人が東京六大学野球連盟理事長だった昭和55年のリーグ戦開始の始球式で、当時の向坊東大総



始球式でマウンドから投げる向坊隆会長

長が球を投げた縁をたどってのことである。

ご本人の草野球好きは“狂”の字がつくほど。その昔の小学生の頃、MK磁石合金で著名な父親・三島徳七東大名誉教授に連れられて、改装以前の神宮球場で東大を応援した（昭和5年）。かと言って学童・生徒・学生時代に学校の野球部へ入ったことが全くないから、それこそ草野球一筋だ。昭和34年以来、投手としての実績は、今年6月15日の三菱重工の職場チームとの定期戦に勝って171勝、71敗、11分、1セーブと好成績である。

今回の紅白試合の結果は、あいにくの雨で3回コールドゲーム、白2対紅0だった。しかし、三回表の紅チーム攻撃の際、孫娘の真理ちゃん（小学校4年）が代打に出て内野ゴロを打つし、この裏には孫の良昌君（小学校1年）も内野ゴロで白チームの得点に結びつく進塁をさせたプレイには、目を細めながら見入る表情が完全に“おじいちゃん”だった。

実は、トラブルがあってはと…ご本人が秘かにネット裏に甥の慶応病院勤務のお医者様を待機させ、スポーツ障害保険をかけたり、原子力発電と同様“多重防護”の細かい安全対策を講じていたことを記しておこう。（飲）

（この記事と写真は電力新報社の御好意により、「エネルギーフォーラム10月号」から転載させて頂きました。）



念願の明治神宮野球場のマウンドでの勇姿
(三島良直会員)

公開シンポジウムのお知らせ

タイトル：産学協力のあり方	プログラム：
日時：平成4年1月30日(木) 13:00～17:00	13:00～14:00
場所：東京・機械振興会館 講堂(B1) 港区芝公園3-5-8 TEL (03)3434-8211	司会 小口文一 ご挨拶 小口文一 基調講演 武田康嗣
主催：日本工学アカデミー 情報専門部会 " 政策委員会	14:40～15:00 コーヒーブレイク 15:00～17:00 パネル討論
共催：日本学術会議 第5部 電子通信工学研連 情報工学研連 日本工学会	コーディネータ 戸田 巖 パネリスト 市川惇信 小口文一 清水 栄

学術法人法（仮称）制定への要望書

かねて日本工学会と日本工学アカデミーでまとめていた学術法人法（仮称）制定への要望書がまとまり、先に全会員宛送付申し上げました。以下に同要望書を関係各方面にも配布いたしましたのでご報告いたします。（政策委員会）

「学術法人法（仮称）制定への要望書」配布先

内閣総理大臣	衆議院 文教委員会 科学技術委員会	科学技術会議議員 臨時行政改革推進審議会会長
内閣官房長官	参議院 文教委員会 科学技術特別委員会	日本学術会議会長
文部大臣		
外務大臣	自民党 幹事長 総務会長	(社)経済団体連合会会長 日本商工会議所会頭
大蔵大臣	政務調査会長 政策審議会長	(社)経済同友会代表幹事 日本経営社団連盟会長
厚生大臣		
農林水産大臣	社会党 中央執行委員長 書記長	(社)経団連産業技術委員長
通商産業大臣		
運輸大臣	政策審議会会長	
郵政大臣	公明党 中央執行委員長 書記長	国立大学協会会長 公立大学協会会長
労働大臣	政策審議会長	日本私立大学協会会長 (社)日本私立大学連盟会長
建設大臣	民社党 中央執行委員長 書記長	
自治大臣	政策審議会長	学協会会長
総務庁長官	社民連 代表 書記長	日本工学アカデミー会員
北海道開発庁長官	政策審議会長	
防衛庁長官		
経済企画庁長官	自民党 文教部会長 科学技術部会長	
科学技術庁長官	社会党 文教部会長 科学技術部会長	
環境庁長官		
沖縄開発庁長官		
国土庁長官		
文化庁長官		
国家公安委員会委員長		
人事院総裁		



The Engineering Academy of Japan

News No.23, November 1991

公明党 文教委員長
 衆議院議員 文教部会長
 参議院議員 科技部会長

新入会員の紹介

分野	氏名	所属
第2分野	尾河洋一	富士ゼロックス株式会社 常勤監査役
	志賀健雄	ライフ・アップ株式会社 代表取締役
	寺島信義	ATR通信システム研究所 代表取締役社長
	当麻喜弘	東京工業大学工学部情報 工学科 教授
	古川静二郎	東京工業大学大学院総合 理工学研究科 研究科長・教授

第6分野 (古川静二郎) 第2分野再掲

大 沢 胖 会 員
 東京大学名誉教授
 平成3年11月5日逝去 享年63歳

鮎 川 彌 一 会 員
 テクノベンチャー(株)、代表取締役社長
 平成3年11月30日逝去 享年68歳

謹んでご冥福をお祈りいたします。

お知らせ

平成4年年賀詞交歓会

平成4年の新春は、下記により賀詞交歓会を開催いたしますので、御出席のほど御案内申し上げます。

記

日 時：平成4年1月16日(木)
 12:00~14:00
 場 所：虎ノ門パストラル(農林年金会館)
 東京都港区虎ノ門4-1-1
 TEL (03)3432-7261 (代)
 (注) 詳細は別途ご案内申し上げます。

編集後記

読書の秋、紅葉の秋も深まり、厳しい冬の訪れも間もない時期になりました。しかし、今年は暖冬とも言われています。

それにしても、今年の夏の終わりから初秋にかけての雨の長かったこと、また、台風が終末には必ずやってくるといった気象状況は、紅葉を半月も遅らせ、青森の未熟なリンゴを70%も落とし、西湖の水位を9mも上げるなど散々な秋を味あわせてくれました。

かつて、原子力の平和利用の声が上がり始めた頃、将来、台風の進路も自由に変えられるようになる様な話も出ましたが、果たして気象を人間がコントロール出来るような時代が来るのでしょうか。

本号は10月31日京都で開催された平成3年度臨時総会を中心にお知らせいたします。本年の最終版となります。早いもので、湾岸戦争で幕を開け、長崎の普賢岳の火砕流による惨状等思えば波乱に富んだ一年でしたが、あと一ヶ月で平成3年も終わりになります。会員の皆様にはご健勝にて新年を迎えられることを心からお祈りいたします。
 (編集子)